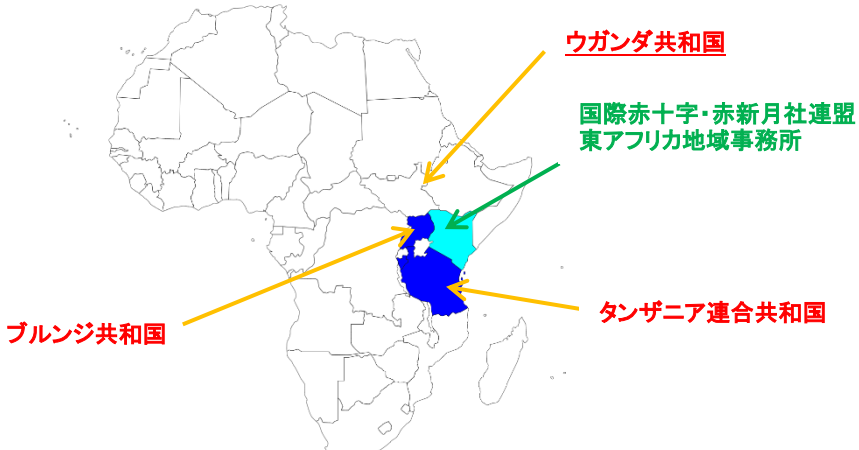


東アフリカコミュニティ参画強化事業

対象国・地域	ブルンジ共和国、タンザニア連合共和国、ウガンダ共和国
事業概要 (経緯・背景)	<p>東アフリカは気候変動を原因とする洪水や干ばつ等の自然災害、内紛や政情不安による難民の発生や人口移動、エボラ出血熱をはじめとする感染症など、様々な課題を抱えた地域です。</p> <p>日本赤十字社（以下、日赤）は2012年より、国際赤十字・赤新月社連盟（以下、連盟）を通じて、東アフリカ地域の国々において住民が主体となって地域保健を強化する活動を支援しています。</p> <p>本事業は、赤十字運動で推進されている「コミュニティの参画と説明責任（Community Engagement and Accountability：CEA）」というアプローチに基づき実施されます。日赤は連盟を通じて、感染症や衛生、防災などに関する知識を赤十字と住民と一緒に学ぶ活動を支援し、「命と健康は自分で守る」という意識の大切さに住民自らが気づき、考え、行動する力を養っています。</p>
事業期間	2023年4月1日～2024年3月31日
場所・対象	<ul style="list-style-type: none"> ・国際赤十字・赤新月社連盟東アフリカ地域事務所（在ケニア共和国） ・ブルンジ共和国、タンザニア連合共和国、ウガンダ共和国 
目標	対象地域の保健状態を改善する。
成果	<p>成果1 地域住民の保健・防災に関する知識を向上させ、その知識を用いて自身の健康と命を守ることができるようにする。</p> <p>成果2 地域啓発活動の担い手となる赤十字社支部のボランティア・職員に対し研修を実施し、必要な知識と技術を普及することで、コミュニティ活動の質を高める。</p>
活動内容	<p>【ブルンジ】本社及び5支部でのCEA研修、12回のラジオ番組放送</p> <p>【タンザニア】CEA指導者養成研修、ラジオ番組及びテレビ番組放送</p> <p>【ウガンダ】ボランティアを対象としたオリエンテーション、CEAアプローチに関する住民を対象とした啓発活動</p>
事業費総額	14,000千円（2023年度）

1. ラジオ放送やモバイルシネマを通じた啓発活動

感染症（新型コロナウイルス、コレラ、マラリア、エボラ出血熱）、水・衛生、栄養、防災などの情報を、ラジオを通じて放送しています。テレビ普及率の低い地域では、情報源であるラジオを大勢の人々が聞いているため、赤十字からのメッセージを効果的に伝えることができます。また、リスナーからの質問に現地赤十字関係者が回答するなど、双方向性が高いのが特徴です。

2. 赤十字ボランティア、職員の能力強化と研修の実施

赤十字ボランティアや支部職員を対象に CEA 等に関する研修を実施することで、コミュニティ活動の質の向上に繋がります。